

カンパラ通信～ナカセロの丘から

第43回 さようならウガンダ！



(大きなジャックフルーツを抱える筆者)



(頂上まで耕されているキソロ県の山々)

長らく皆様にお付き合いいただきましたカンパラ通信は今43回をもって最終回となります。ご愛読していただいた皆様には厚く御礼申し上げます。と申しますのは、約4年4ヶ月のウガンダでの勤務を終えて10月18日にウガンダを離任することになったからです。着任時には4年以上も在勤するとは全く思っておりませんでした。また、それに先立つ10年前には次席館員として2年と10ヶ月にわたり在ウガンダ大使館で勤務しましたので、あわせて7年2ヶ月のウガンダ生活を送ったこととなります。最後はウガンダが新型コロナウイルス感染症対策のためにとった国境閉鎖措置のためしばらく日本でのテレワークを余儀なくされましたが、全般的には数多くの有意義な経験をさせていただきました。最終回となるこのカンパラ通信では、2回の在勤生活を通じて私なりに感じたウガンダの魅力と、ウガンダやウガンダ人がもしこんな風ならもっといい国、もっといい国民になるのになあ、という点を披露して総括させていただきます。



(ンデレ・センター所長のお嬢さんの
伝統的結婚式)



(カラモジャ担当大臣と寛ぐ
EXILE USAさん)

ウガンダの魅力はというと、明るく人が良くコミュニケーションしやすい国民と緑豊かな風土で温和な気候だと多くの外国人が口を揃えて言います。私も両手を上げてその意見に賛成です。もちろん人は一人一人異なりますので、ウガンダ人の全員が人がいいというわけではありません。他人を騙してお金を巻き上げようと詐欺まがいのことをする人は少なくありませんし、私が外交官であるから関係を結んでおけばいいことがあると打算的に近付いてくる人もおります。しかし、私が会ったウガンダ人の大多数の人は、明るく素朴で話し安い人達でした。スーパーマーケットでレジを打つ係の人とも混んでいない時は軽い会話を自然とできたりします。同じことはレストランやカフェのスタッフにも言えます。こういう人たちがウガンダでの毎日の生活をリラックスさせ楽しませてくれます。おかげさまでたくさんの友人にも恵まれました。夫婦単位で付き合う友人にも事欠きません。

2番目の魅力は天候です。赤道直下でありながら約1300メートルの高地に位置しているため気温は1年中を通して人間にとって理想的な20℃台に収まっています。最近では温暖化のせいかカンパラでも30℃を超える日が多くなってきたことは残念ではありますが。国土の南側がアフリカ最大の湖であるビクトリア湖が控えているためか首都カンパラに住んでいると気温が急激に変化することも少なく安定しているため人間に優しい気候とって良いかと思えます。人間に優しい気候ですが、マラリア原虫やエボラ熱の原因ウィルスにまで優しいのは困りものではありません。



(カンパラの高層ビル群)



(カンパラ・ゴルフコース14ホール)

次にウガンダで生活していて少し残念なことです。何と言ってもカンパラ及びその周辺に限られますが交通渋滞が激しいことです。週末はまだ良いのですが平日の混雑は予想がつかず約束の時間どおりに到着するのが非常に難しいです。ラウンドアバウト(環状交差点)などは車がどんどん入ってくるばかりでなかなか外に出られません。お互いがお互いをブロックして渋滞を悪化させてしまっています。車の量がラウンドアバウトでは処理できないほど多くなっているからです。そのため、主要交差点をラウンドアバウトから信号に変える傾向になっています。そのような動きを推し進めたのは日本のODA事業です。それ

でも処理できないくらいに車両が多いため、最近ではラッシュアワー時には信号に頼るのではなく交通警察官が出てきて手旗で指示しているのが現状です。このような渋滞のために平日は自分で運転するのは控えています。おかげさまで平日は公務で忙しくプライベートで市内を移動することはほとんどなく、大使館の車両を使っていますので、自分でハンドルを握る機会は幸いなことにありません。交通渋滞に派生する問題に大気汚染があります。カンパラの空気は相当汚染されているということで悪名が高いところです。

2番目は公園のように緑豊かで池などもあって落ち着いてゆっくりベンチに座って休めるようなスペースが少ないことでしょうか。カンパラ市内ではそのようなところは思いつきません。敷地面積が広いリゾート系のホテルぐらいになってしまうでしょうか。その点、日本は公園がずいぶん整備されていると思いました。新型コロナ感染問題でウガンダに帰任できないで日本にいた間は留守宅のある埼玉県越谷市に住んでおりましたが、ママチャリで30分から1時間で行ける距離に公園がたくさんありました。そこでは雨水調節池があってそれがいい風景を作り出しています。子供が遊ぶ遊具があったりジョギングコースがあったり、テントを張って家族で寛いだりできます。ウガンダにはそういうところがないのが残念でした。カンパラの街の真ん中で緑が多いところは実はゴルフコースくらいです。そのため緑の中で散歩することを目的にゴルフをしていたようなものです。スコアが少しもよくなる言いい訳めしていますが、やっぱり言い訳でしょうか。

3番目がウガンダの人が時間にルーズだということです。時間を守らないのは世界を見渡せばウガンダの人だけではないことは確かですし、そして日本人が特に時間に厳しいという点を差し引く必要もあるでしょう。それにしても長年住んで暮らしていたウガンダです。人々が時間にルーズだといいつい言うてしまうのです。よく言えば時間にとらわれて生活しておりません。皮肉っぽいかもしれませんがお金はないけど時間だけはたっぷりある国民と言えます。農業や牧畜で生計を立てて来た人たちだからでしょうか。農業といっても日本のように手をかけているような感じがしません。気を付けているのは雨の時期をみて種を植えるくらいでしょうか。米の苗を植える時もまっすぐに植えると後で雑草を取り除くときに楽になるというところにまで気が回りません。人間の自然な欲に素直なのでしょう。楽な方楽な方に考えが行く人が多いような気がします。しかし、こういう生き方は自然かもしれませんが、働き方は能率が悪いので工業化には適していないと言わざるを得ません。納期どおりに注文通りの質と量の商品をお納めしないと次からは注文がとれませんから。時間を守ることが工業化の前提条件だと思います。



(見事な角のアンコレ牛)

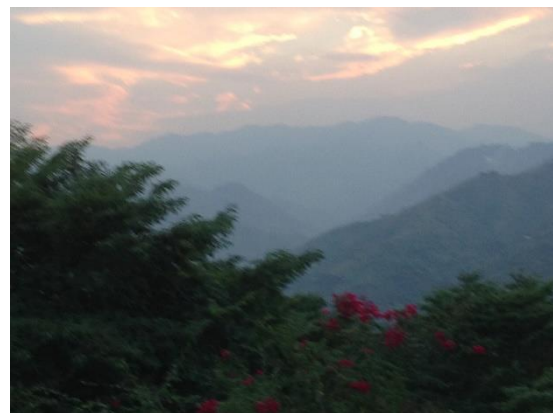


(カラモジャ地方の奇岩)

よく赴任していた国の中でどこが一番よかったと思いますか、と尋ねられることがあります。そこは私も外交官ですので、「いずれの国もよかったです。」と回答するのですが、それは正直なところ。同僚の中には紛争の地での勤務や東南アジアを襲った大津波の邦人被害者の対応など命を落としたり健康を患ったりする人がいる中で、いずれの地でも元気に暮らせ新しい友人の輪を広げることができたのは幸いなことと思っております。そして、ウガンダのように長く暮らせば暮らすだけ友人の輪は広がり、また、それぞれの交流は深まり、それだけ思い出が積み重なってきていますのでウガンダに対する思いはひとしおです。それだけにウガンダがもっともっとよい国として発展してほしいという気持ちから改善する余地のある点を挙げさせてもらったと理解をしていただければ幸いです。



(再建中の世界遺産カスピの墓を背景に
ムロンド王子と)



(ウガンダの最高峰ルウェンゾリ山を
遠くに臨む)

今度ウガンダを訪れるのは何時になるかはわかりませんが、足が達者なうちに是非再訪したいと考えています。その時にどんなウガンダと対面できるか今から楽しみにしております。

(了)